

事業名：コンベンション施設北口線 道路新設事業

所属名 高崎土木事務所

区分  
道路(市街地)

1. 事業概要

(都)コンベンション施設北口線は、コンベンション施設である「Gメッセ群馬」のメインアクセス道路である。

日本はもとより世界から施設への来場者が通るエントランスとしてふさわしくなるよう、また、イベント開催時以外は生活道路として使われることから、来場者以外の道路利用者も快適に利用でき、周辺景観と調和の取れた道路空間とする必要がある。



3. 事業目的【ステップ2】

①現場から何を見せるのか  
道路・施設利用者の賑わい、「Gメッセ群馬」のイベントの盛り上がり感、沿線の町並みと調和した道路空間。

②どこから現場自体を見せるのか  
道路利用者目線(ドライバー・歩行者・自転車)・「Gメッセ群馬」のエントランス、ペDESTリアンデッキの上

③目指すべき目標像  
道路利用者の快適な利用環境を確保するとともに、空間の最大限の有効活用として広場の利用や待ち合わせ場所・休憩施設の確保を行い、機能性、快適性を重視した施設のエントランスとしてふさわしい道路空間とする。また、施設本体や地域景観と調和した群馬らしさを感じさせる道路空間とする。

2. 現場の特徴【ステップ1】

- ・高崎駅東口地区は、企業の進出や道路整備などにより新たな商業・業務地として発展を続けている地域である。
- ・道路が新設される箇所は、住宅街である。また、道路直線上には「Gメッセ群馬」が望める。

4. 専門家の助言の有無【ステップ4】 (有・無)

- ・完成後、時間が経って劣化(見栄えが悪くなる)するようなデザインをしないこと。(材料などに工夫)
- ・来場者だけでなく、日常利用者のことも考慮した景観デザインとすべき。そのため、場所ごとにどのような利用形態となるかを分析した上で、デザインを行うことが必要。
- ・地域性や場所性を活かしたデザイン(例えば植栽を施設と一体として考える)をすれば、対外的にアピール出来る。
- ・空間的な目線でデザインすること。(平面図に図柄を落とすことがデザインではない。)

5. 配慮内容【ステップ3】 <完成> (整備前後の写真やコメント等)、計画済・計画中 (想定される内容) >



・交差点部は広々とした歩道空間として整備、案内看板やシンボルツリーを設置。  
・歩道舗装ブロックに天然骨材洗出しブロック(劣化しにくい材料)を使用。  
・群馬の絹糸産業をイメージした織物の模様を舗装ブロックでデザイン。



・県有地を有効活用。  
・占用者と調整し全体景観と調和するデザインを採用。



・縫い針をイメージしたシンボリックな形状で照明類をデザイン。



・光り方を確認し、まぶしくないよう夜の景観に配慮。



・座面は、木のぬくもりがあり、耐候性を高めた加工木材を使用。